



2024年7月24日

各 位

会社名 セーラー広告株式会社
代表者 代表取締役社長 村上 義憲
(コード2156 東証スタンダード市場)
問合せ先 執行役員総務局長 西分 太郎
(電話 087-825-1156)

通期連結業績予想および前年実績との差異に関するお知らせ

当社は、本日、2024年3月期決算短信を開示いたしました。2024年3月期決算実績値と2023年5月12日に公表いたしました2024年3月期通期連結業績予想並びに前年実績(2023年3月期決算実績値)との差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 2024年3月期決算実績値と2024年3月期通期連結業績予想並びに前年実績(2023年3月期決算実績値)との差異

	総売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
連結業績予想 (A) (2023年5月12日公表)	7,700	190	210		
今期実績 (B) (2024年3月期連結決算)	7,625	37	62	△74	△19.55
増減額 (B-A)	△74	△152	△147		
増減率 (%)	△1.0	△80.0	△70.1		
前期実績 (C) (2023年3月期連結決算)	7,561	168	187	136	36.03
増減額 (B-C)	63	△130	△124	△210	
増減率 (%)	0.8	—	—	—	

2. 差異の理由

当社グループにおきましては、2022年4月に策定した『中期経営方針』に基づき、デジタル領域の拡大と新規事業の創出に取り組んでまいりました。デジタル領域の拡大につきましては、動画広告やSEO・MEO対策などデジタル領域の提案を切り口とした新規開拓に努めるとともに、マーケティング分野へのデータ活用を積極的に提案したことから、インターネット広告の売上は順調な伸びとなりました。新しい事業領域への取り組みといたしましては、昨年7月に事業を譲り受け、同8月から再開した徳島県および香川県の物産販売店舗『徳島・香川トモニ市場～ふるさと物産館～』の運営をとおして地域製品の販路拡大に取り組んでまいりました。同店舗におきましては、購入者数も順調に増え安定した売上を確保することができ、百貨店や大型量販店での展示販売にも挑戦いたしました。当連結会計年度におきましては、外出機会の増加による旅行や催事に関連したプロモーション活動のほか、昨年10月下旬に愛媛県で開催された『第35回全国健康福祉祭えひめ大会～ねりんピック愛媛のえひめ2023』、JR高松駅周辺の再開発に関するプロモーション活動、地元への就職・転職支援フェアの開催などが当社グループの売上高の伸長を牽引いたしました。以上から、当社グループの総売上高は7,625百万円(予想比99.0%、前期比100.8%)となりました。

当社グループにおきましては、利益率向上を意識した営業活動と内制化の推進を徹底いたしました。が、催事関係の利益率が伸び悩んだことと動画コンテンツの制作や配信等に関する外注費の計上があり、売上総利益が 1,570 百万円（前期比 96.0%）となりました。また、当連結会計年度におきましては、提案活動の活発化に伴い営業活動費用が増加したほか、徳島・香川トモニ市場の再開に向けた初期費用に加えて、新規事業における販売商品に関するプロモーション費用や営業力・提案力強化を目的とした社内 DX の推進費用を計上したことから、販売費及び一般管理費が 1,533 百万円（前期比 104.5%）となった結果、営業利益は 37 百万円（予想比 20.0%、前期比 22.5%）、経常利益は 62 百万円（予想比 29.9%、前期比 33.4%）となりました。

当連結会計年度におきましては、連結子会社の事業用資産に関して減損処理を行い固定資産の減損損失 68 百万円を特別損失に計上し、さらに、当社グループの繰延税金資産に関して 43 百万円を取り崩した結果、親会社株主に帰属する当期純損失は 74 百万円（前期は 136 百万円の親会社株主に帰属する当期純利益）となりました。

以上